

第3回 市町村・公民館等職員専門研修 実施レポート

期日：令和5年10月4日（水） 参加者：25名（うち市町村から19名）

県や市町村の生涯学習・社会教育主管課職員や、公民館等社会教育施設に勤務する職員を対象に、「障害者の生涯学習×防災」をテーマに研修を行いました。

【午前 講話・演習】

当センターの副主幹（兼）学習事業班長 **柏木 睦** が、『「障害者の学びの場」つくってみませんか!?～仙北市の取組から～』と題して、講話と演習を行いました。

前半の講話では、「防災」講座を実施することの意義として、①「教育としての防災」は現代的課題であること、②誰の身にでも起こる「必要感」があること、③学んだことが役立つ「満足感」があること、④楽しさをプラスすることで「持続可能性」が高まること、を挙げました。その方針の下、当センターが進めてきた「障害者の生涯学習×防災」について、仙北市での取組を例に、募集時に、配慮してほしいこと・付き添いの有無等の情報を取得することの大切さや、スタッフ、参加者の経験値が合理的配慮へとつながっていくなどの知見を述べました。

後半の演習では、百円均一ショップで手に入れられる防災グッズの紹介を聞き、続いて、災害時に役立つロープワーク、水で戻すインスタントラーメンづくりなどの体験に取り組み、その有用性についてを感じ取っていました。

最後に、「防災の究極の目的は、自分の命を自分で守ること」とまとめ、午前の部を締めくくりました。



【午後 講話・演習】

日本赤十字秋田短期大学の **及川 真一** 先生を講師とし、「避難行動要支援者に向けた避難行動支援と公民館における水害対策」と題して、講話・演習が行われました。

本年7月に秋田県を襲った豪雨災害の時の写真を示しながら、前半の講話が進められました。外水氾濫と内水氾濫の違いや、浸水時、大人の膝の高さまで水が達すると歩けなくなることなど、注意しなければならないことを学びました。また大雨が降る前にしておくべきこととして、①「土のう」の準備と設置、②「水のう」の準備と設置、③側溝や雨水ますの清掃、④止水板の設置、⑤避難場所・避難経路の事前確認など、公民館のみならず一般家庭にも通用する水害対策を学びました。

後半では、高齢者の避難とその支援について、疑似体験が行われました。写真のように、足に重りを付け腕を自由に使えないよう固定し、杖を使って階段を歩くことを通じて、高齢者の避難の難しさと、早期避難こそが最も大切であることを身をもって体験しました。また、「最小限の力で介護ができる介護技術」であるボディメカニクスの実演を行い、参加者は皆、驚きとともに、主体的に体験していました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・障がい者向けの講座や、防災についての講座など、企画したいとは思っていたが、何から始めればいいのか分からなかった。しかし、今回参加して、「まずやってみる」という意識が大事なことに気付いた。
- ・体験することにより、自分の中に防災に備える必要性や、障がいをもっている人たちの気持ちを少し理解できた。公的立場として、自助力を上げる意味での防災について理解できた。